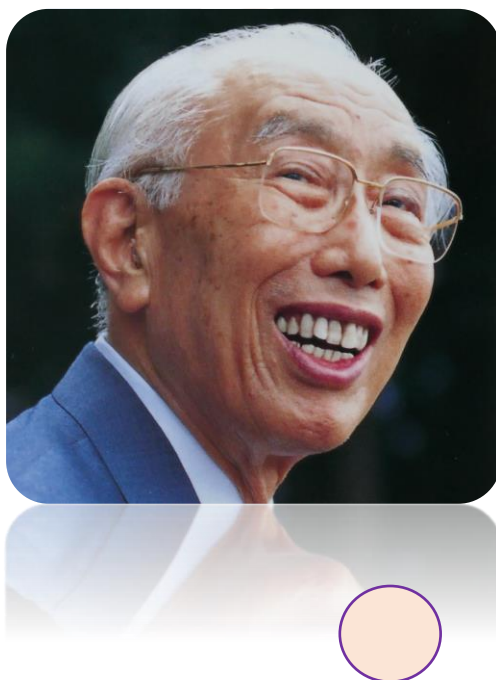


立正佼成会仙台教会発足60周年記念事業

RKK Sendai School for Civil Society Leadership

立正佼成会 仙台教会
市民社会のためのリーダー養成塾
2018年度 第1期 報告書



2018年12月1日

1. 全行程

【第1回】

- ・日 程：4月21日（土）～22日（日）
- ・場 所：秋保リゾートホテルクレセント
- ・宿 泊：同 上



- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 市民社会が求める宗教とは？ | 講師：近藤雅則
(塾長、仙台教会長) |
| 2. 現代における「学問のすすめ」 | 特別講師：齋藤忠夫
(東北大学名誉教授) |
| 3. 人間としての生き方～松下幸之助師に学ぶ～ | 特別講師：村井嘉浩
(宮城県知事) |
| 4. 困難を乗り越えていく力とは？
(NPO 法人 無料学習塾「八王子つばめ塾」理事長) | 講師：小宮位之 |
| 5. 世のため、人のために、私たちができること
(NPO 法人「仙台支え愛サポートセンター」理事) | 講師：新井 純 |
| 6. 市民自らによる「よりよき社会づくり」の心と実践
(NPO 法人「仙台夜まわりグループ」事務局次長) | 講師：青木淳子 |

【第2回】

- ・日 程：6月9日（土）～10日（日）
- ・場 所：立正佼成会 本部
- ・宿 泊：第二回参会館



- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 庭野日敬の「法華経観」、「平和観」 | 講師：庭野光祥
(名誉塾長、本会 次代会長) |
| 2. W C R P の理念と世界の動き | 講師：篠原祥哲
(WCRP 日本委員会 平和推進部長) |
| 3. 「宗教協力」の未来～現状とその展望～ | 講師：国富敬二
(W C R P 日本委員会 事務局長) |
| 4. 人材育成の今日的課題とその方向性 | 講師：庭野統弘
(庭野平和財団 理事長) |
| 5. 「立正佼成会」がめざすもの | 特別講師：川端健之
(本会 理事長) |

【第3回】

- ・日 程：8月11日（土）～12日（日）集合：竹駒神社
- ・場 所：竹駒神社（1日目）、協創塾、虹の園（2日目）
- ・宿 泊：ホテル原田



- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 1. 伝え継ぎたい「日本人のころ」 | 特別講師：千葉博男
(竹駒神社 名誉宮司) |
| 2. 日本人の「宗教心」とは | 講師：藤田昌信
(出羽三山神社 権禰宜) |
| 3. 町おこしに向けて私が歩む道 | 講演：佐藤正友
(宮城県仙南中央森林組合 代表理事組合長) |
| 4. 社会福祉のための私たちの取り組み | 講演：湯村利憲
(社会福祉法人 臥牛三敬会「虹の園」理事長) |
| 5. 市民参加による国際協力への提言 | 講師：武田 暁
(元 J I C E 職員、角田市議会議員) |

【第4回】

- ・日 程：10月20日（土）～21日（日）
- ・場 所：パレス松洲
- ・宿 泊：同 上



- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 生と死の尊厳を見つめて | 講師：谷山洋三
(東北大学大学院 准教授) |
| 2. 現世利益から本質的な救いに導く「方便力」 | 講師：伊藤雅由
(本会 元埼玉支教区長) |
| 3. キリスト教から学ぶ、よりよき市民社会づくり | 講師：川本貢市
(中央学術研究所 所長) |
| 4. 生命科学が証明する「宗教心」の大切さ | 講師：平塚真弘
(東北大学大学院 准教授) |
| 5. 塾生に期待することー卒塾にあたってー | 講師：近藤雅則
(塾長、仙台教会長) |



2. 塾生・・・14名（男性6名、女性8名）

3. 教育項目

「人間力開発プログラム」、「人生経営力開発プログラム」、「人心救済力開発プログラム」と大きく3つに分けられた「教育項目」に基づき「講義」、「講演」、「グループワーク」、「施設見学」等が行われました。

（1）人間力開発プログラム

- ・「人間力」とは、「人間」として本然の姿に気づき、この世に生を受けた際に託された一人一人の「使命」を、その人生の中でまっとうしていく力をさします。その「人間力」の開発を行います。

（2）人生経営力開発とは

- ・さまざまな人の人生、あるいはさまざまな組織の目標や目的を達成するために、継続的・計画的に意思決定を行い、実行し、よりよき事業を管理・遂行していく能力の開発を行います。

（3）人心救済力開発とは

- ・人間が持つ苦や悩みに対して、その解決をはかると共に、「希望」「勇気」「安心」を与えていける能力の開発を行います。



4. 各講義の要旨および塾生の主な感想

◇第1回（講義順）

講義：市民社会が求める宗教とは？



講師 近藤雅則(塾長、仙台教会長)

教育項目 「人間力開発」

内容

本リーダー塾の開塾にあたり、その基調となる講義です。「心の時代」といわれているながらも、なおも続く物質偏重の社会。とりわけ、東日本大震災後の現代社会における真の復興とは何かについて問い、仏教の世界観・人間観・人生観をもとに真の復興に向けて宗教が持つ役割を学びました。

塾生の主な感想

- ・宗教の果たすべき三つの役割のすべてを果たすことが大事と学び、どれほど実生活の中で実践できている自分かと思った。特に第三の役割において、社会でさまざまな人とのつながりもっていきたいと思った。
- ・自立した信仰者とならせて頂くため、“まず一人でもやってみる”と自発的に挑戦しようと思える気持ちになることが大切だと思いました。

講 義：現代における「学問のすすめ」



特別講師 齋藤忠夫(東北大学名誉教授)

教育項目 「人間力開発」

内 容

人格の向上のためには〈向学心〉が大切なものとなります。私たちはどのような姿勢で学びを深めていけばよいのか？先師・福沢諭吉が遺した著書『学問のすすめ』を基に、私たちは今、どのような態度で“学び”、深めていけばよいのか、乳酸菌研究の第一人者である齋藤忠夫博士から学びました。

塾生の主な感想

- ・賢い人とそうでない人との違いは、真剣に学ぶか学ばないかということが要因の一つになっていることを知りました。さらに学ぶとは実践、実行する中に身につくものと教えて頂きました。
- ・教育の現状を教えて頂き、教育への取り組みによる成果が現れるには、ある程度の時間が必要であると同時に、他県のように小、中学生の教育水準の高い県ではあるものの、人口の減少、自殺者の増加など他の課題への取り組みの同時進行の難しさを痛感しました。

講 義：人間としての生き方 ～松下幸之助師に学ぶ～



特別講師 村井嘉浩(宮城県知事)

教育項目 「人間力開発」

内 容

「松下政経塾」の卒業生であり、宮城県知事の要職にある村井嘉浩氏。人間として、そしてリーダーとしての生き方、身の処し方について、松下幸之助師が信条とした「素直な心」を中心に、村井知事自身が経験した東日本大震災後の危機管理を含めて、その学びを深めました。

塾生の主な感想

- ・「謙虚」であること、「素直な心」など、日頃教えて頂いていることが、シンプルではあるけれど本当にそれができるよう、いつも常に心構えとして持っていきたい。
- ・一番大切なこと、心得ておく必要なのは謙虚になること。「私が」という「我」を捨てて、「お陰さま」の「下(げ)」で生きる、そんな感謝の人生にしていきたい。
- ・“対立しつつ調和する”ということを教えてもらい、異質な縁の中にふれ合っていく勇氣を持つことができ、《菩薩力アップ》につながると思いました。

講 義：困難を乗り越えていく力とは？



講 師 小宮位之(NPO 法人 無料学習塾「八王子つばめ塾」理事長)

教育項目 「人生経営力開発」

内 容

今までの生活基盤を投げうち、すべてが《ゼロ》から出発。その中でも、「創意」「熱意」「誠意」があれば必ず成就する。時代の先駆けとなり、あらゆるマスコミから注目を浴びる「無料学習塾 八王子つばめ塾」の体験をもとに、夢の実現に向けて困難を乗り越えていく経営の心を学びました。

塾生の主な感想

- ・苦しい時こそ、自ら行動していくことが大切だと教えてもらった。自分に厳しく、そして社会のために思っていることは成し遂げていける。目の前のことに必死になることが大事だと思った。
- ・本気になれば、必ず周りも動くと確信できました。

講 義：世のため、人のために、私たちができること



講 師 新井 純(NPO 法人「仙台支え愛サポートセンター」理事)

教育項目 「人生経営力開発」

内 容

新井純講師の情熱によって誕生した「支え愛サポートセンター」。この「地域支え愛事業」は、「NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会」(埼玉県ふじみ野市)のノウハウにヒントを得たものでした。健康で明るく思いやりのある地域づくりに向けた「願い」がなぜ実現したのか？その具体的な実践を学びました。

塾生の主な感想

- ・新井講師さんが、玄秀盛氏から教えて頂いた「あなたの情熱が資本金。お金も人もあとからついてくる」という言葉は、庭野開祖の著書から教えて頂いた「道中に衣食あり」という言葉と同じだと思った。
- ・普通の主婦であっても、見方を変えていく、地域に関心を持つことで、世のため、人のために何かできることがあるのだと考えることができました。地域に積極的にに関わり、地域で抱えている問題や困り事に目を向けて、私からできることに取り組んでいきます。

講 義：市民自らによる「よりよき社会づくり」の心と実践



講 師 青木 淳子 (NPO 法人「仙台夜まわりグループ」事務局次長)

教育項目 「人生経営力開発」

内 容

仙台市のホームレス支援の先駆けとしての支援体験をもとに、身近な都会の“いま”、“ここ”にある現実を教えてもらいました。また、ホームレスを生み出してしまふ現代社会の矛盾に取り組む、熱意と継続の大切さ、そして、市民一人一人の役割とネットワークづくりの要点を学びました。

塾生の主な感想

・青木講師さんの地道な活動は、まるでマザー・テレサの姿と重なりました。「夜回りグループ」の活動を知り、その写真を見て、自分の見方が変わりました。自分の知らなかった世界を教えて頂き、私も世の中、社会の動向を見ていけるようにしたいです。

・青木講師さんの優しく、温かい心がジーンと伝わってきました。素晴らしいお人柄、志の高さに頭が下がりました。路上で頑張っているホームレスの方たちに、「それだけでも、すごい！」とおっしゃる青木講師さん自身が、本当に素晴らしいです。



◇第2回（講義順）

講義：開祖庭野日敬の「法華経観」、「平和観」



特別講師 庭野光祥（名誉塾長、本会 次代会長）

教育項目 「人間力開発」

内 容

立正佼成会の創立者であり、WCRP（世界宗教者平和会議）の創設者の一人である庭野日敬師の「法華経観」、「平和観」を孫にあたる庭野光祥次代会長より学びました。苦しみや悩みが生じた時、目の前の苦しみはそのままでも、そのものを受け入れていく。そこに久遠のご本仏さまから、どんなメッセージがあるのかを見つけようとする生き方こそ大事だと教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・光祥さまは、自由自在のお方だと感じました。
- ・次の言葉が印象に残りました。
 - *「なんでこの人が、こんなことになるのだろう」という想いは、温かい心で、その人を思っているからこそ。
 - * 前向きに思えないことにフタをするのではなく、それをも受け止める。自分がどういう時にどう思うかを知ることによって前進できる。
- ・光祥さまの発せられるお言葉のお一言、お一言に、今までの自分がいかに幾重にもヨロイを重ねていたのだなと心がすーっと軽くなりました。開祖さまのお言葉のように、「人間っていいものだよ」と思って、人さまと出会える私になりたいです。
- ・自分を否定せずに起きてくる心をありのままに認めながら、素直になることで前に進む力が起きてくるのだと思いました。



講 義:WCRPの理念と世界の動き



講 師 篠原祥哲 (WCRP 日本委員会 平和推進部長)

教育項目 「人心救済力開発」

内 容

WCRP が掲げる理念・目標と、現在の世界における宗教協力の現状、動きについて学びました。また世界的なことと地元のことは一つであると教えて頂き（グローバルとローカルは一つ）、WCRP が世界に向けてだけではなく日本国内においても「災害復興支援」など、幅広い活動をしていることを教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・世界の多くの宗教組織と連携し、また国内でも幅広く、いろいろな分野の方、団体と関わりを持って活動されていることを知りました。
- ・開祖さまが提唱なされたWCRPの活動が、世界の宗教者が力を合わせて世界平和をめざしているだけでなく、具体的に大震災後の復興支援、人道支援をされていることを初めて知り、改めて開祖さまの大きさ、素晴らしさを学ぶことができました。

講 義:「宗教協力」の未来 ～現状とその展望～



講 師 国富敬二 (WCRP日本委員会 事務局長)

教育項目 「人心救済力開発」

内 容

庭野日敬師が先頭に立ち提唱された「宗教協力」。そのこれからの在り方と私たち一人一人の取り組みについて学びました。その中で、庭野日敬師が最も心血を注がれたのは「一乗精神の実践」であり、その大きな一つの行動が宗教協力であったと教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・平和への道ははるかな道のりです。しかし、それをめざす努力の中に平和がある…。開祖さまが歩んでくださった“この道”があるお陰さまで、私も世界平和、宗教協力に向けて、一歩でも進めることをしみじみ感じました。
- ・「世界の困難に直面している一人ひとりのために行動する」「自分の心が平和であるか」「朝が来るのが待ち遠しい人の集団に」「調整は足で。Face to Face のふれあいを」と言った言葉がとても心に残りました。

講 義：人材育成の今日的課題とその方向性



講 師 庭野統弘(庭野平和財団 理事長)

教育項目 「人心救済力開発」

内 容

人材とは何か？また何をもって人材と呼ぶのか？人材育成の大切さを、リーダーシップ論と合わせて学びました。その要点として、自分自身がどう育成されてきたかを振り返ってみると、両親をはじめ、周囲の多くの方々に自分の「仏性」を引き出してもらいながら育てて頂いたということを教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・相手を菩薩と見ることができないのは、自分が見ようとしていないだけと教えてもらいました。この人も、あの人もすべて菩薩だと見て、そして口に出すことを心がけていきたいです。
- ・自分自身が『法華経』の精神をどう学んで、どう生きるか。そして、そのことを人さまにしっかりと伝えていくことが、“人材育成”だと教えてもらいました。

講 義：「立正佼成会」がめざすもの



特別講師 川端健之(本会 理事長)

教育項目 「人生経営力開発」

内 容

1938年3月5日に創立された「立正佼成会」。その歴史を振り返ると共に、市民社会に果たしてきた宗教団体としての役割とこれからの未来像を川端理事長より学びました。立正佼成会は宇宙の大法則を示し、伝えることで多くの人々を本当の幸せへと導き、広く社会に伝道してきた歴史であったと学ばせて頂きました。

塾生の主な感想

- ・この世界には動かしがたい大法則が存在している。それは、「八正道」であり、「六波羅蜜」であり、それらすべての人が幸せになれる法則が、『法華経』にことごとく示されていることを教えて頂き、感動いたしました。
- ・開祖さま、光祥さまのお心を分けて頂き、「本当に心配しなくていいんだ。この世界は仏さまの世界、すべての現象は私を成長させてくれるもの」と気づかせて頂き、目の前の人のお幸せと世界の平和を願い、毎日を楽しめる世界にしていきたいと思います。

◇第3回（講義順）

講義：伝え継ぎたい「日本人のころ」



特別講師 千葉博男（竹駒神社 名誉宮司）

教育項目 「人間力開発」

内 容

日本三稲荷の一つである竹駒神社名誉宮司の千葉博男師から、日本人が育んできた自然を拝み、「いのち」のもとである祖先に感謝し、大切にしていこうという次代に伝え継ぎたい「日本人のころ」を学びました。また庭野開祖との出会い、人柄を通して「宗教心」、そして「宗教協力」の大切さも合わせて教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・「神道」は、日本の文化そのものであることや、日本の古くから伝わる「祭り」の意味、そして人と自然が調和し、神さまとご先祖さまがみんな繋がっていることに感動しました。
- ・歴代の天皇陛下が、日々、私たち国民と世の中の平和を祈ってくださっていることを教えて頂き、改めて有り難く思わせて頂きました。
- ・「正直」「愛敬」「平安」といった心を忘れずに、「感謝」と「祈り」の心をもって大らかに、みんなが仲良くしていくことは、どんなことがあっても忘れてはいけないと思わせて頂きました。

講義：日本人の「宗教心」とは



講 師 藤田昌信（出羽三山神社 権禰宜）

教育項目 「人間力開発」

内 容

神道と仏教、そして修験道が融合し、“甦りの場”と呼ばれる出羽三山。その出羽三山の神仏習合の歴史について学び、修験道からみた神道と仏教の修行やとらえ方の違いなど、藤田講師の体験をもとに、日本人、特に出羽三山を中心に東北地方に連綿と流れる“民衆の宗教心”について学びました。

塾生の主な感想

- ・出羽三山神社には行ったこともなく、たいへん貴重なお話を聴けました。仏教と神道が遠い昔から仲良くやってきたことを改めて教えて頂き、この日本人の他宗教や他文化を自然に受け入れてきた特性、寛容の精神は、世界に誇れる文化、歴史だと思いました。
- ・遠い昔のご先祖さまが霊山で修行をし、即身仏となって世の人々を救おうとされてきた。“甦りの場”としての霊山に驚きました。

講演：町おこしに向けて私が歩む道



講演 佐藤正友(宮城県仙南中央森林組合 代表理事組合長)

教育項目 「人生経営力開発」

内容

地域の特性を見出しつつ、それぞれの季節に応じた「市民まつり」を通して町おこしに取り組む佐藤正友先生。“過疎化が進む地域で、自分ができる最大限の努力を情熱こめて続けていく。そこに、自らの喜びと生きがいがある”。市民社会における「努力」、「熱意」、「継続」の大切さを、佐藤先生の講演から学びました。

塾生の主な感想

- ・町おこしのためにと、自分の時間、私財を惜しみなく使われているお姿に感動しました。このような方が町にいたら、どんなに頼もしく、そして私自身がなれたらと思いました。
- ・佐藤正友先生のように損得めきで、地域社会のために自ら気づいたこと、役立つことを実践させて頂く。そして、人と人との心の繋がりを大切にすることを学ばせて頂きました。

講演：社会福祉のための私たちの取り組み



講演 湯村利憲(社会福祉法人 臥牛三敬会「虹の園」理事長)

教育項目 「人生経営力開発」

内容

心身に障がいを持たれる方がどうしたら地域社会の中で、安心して、生きがいを持っていけるか？パンや餃子、ピザの製造販売と店舗の展開、また手漉き和紙の制作販売など、障がい者の安定した経済支援のために心血を注ぐ湯村先生より、社会福祉法人としての経営理念、施策、将来への展望について講演を頂きました。

塾生の主な感想

- ・三つのつながり。人と人とのつながりの中で生活を営み、人と自然のつながりの中で“いのち”は生かされ、体と心のつながりの中で生命を育んでいる。虹の園さんの見学を通して学ばせて頂き、とても温かい気持ちになりました。
- ・障がいのある方が特別視されるのではなく、あくまでも地域社会の一員として自立して生活できるよう支援し、かつ地域が活性化できるように行動されている湯村先生のお姿に感動しました。また、「虹の園」の職員の皆さんが、優しく、丁寧で、親切的な姿勢に感動しました。

講 義：市民参加による国際協力への提言



講 師 武田 暁(元JICE職員、角田市議会議員)

教育項目「人生経営力開発」

内 容

JICA(独立行政法人国際協力機構)が派遣する青年海外協力隊等への自らの参加体験を基に、現地(チェニジア)のスライド写真を通して海外への協力の大切さを教えて頂くと共に、自分が住んでいる地域社会や、そこに住む人々に対して「どのような“協力”をできるか」という意識開発の必要性を学びました。

塾生の主な感想

- ・地域に生きるということは、地域に向かって自らがいかに主体性を持って、具体的に行動を起こすか……。この武田講師さんのお言葉が、この第3回の2日間を通して貫かれているテーマだと思いました。
- ・「世界の平和を保たれているのは、誰かが、どこかで、世界平和のために尽力している人がいるということを知っておいてください」という武田講師さんの言葉が、胸を打ちました。

◇第4回(講義順)

講 義：生と死の尊厳を見つめて



講師：谷山洋三(東北大学大学院 准教授)

教育項目「人心救済力開発」

内 容

谷山先生ご自身の「臨床宗教師」としての体験を基に、「生」と「死」について、日本の伝統文化、神道、仏教、キリスト教といった各宗教の捉え方をもとに、医療現場もふまえて学ばせて頂きました。また、「スピリチュアルケア」について、日常の中で考えていくことの大切さを合わせて教えて頂きました。

塾生の主な感想

- ・「臨床宗教師」は「寄り添う」だけではなく、「祈る」ことができることを教えて頂き、相手の宗教に合わせて、また相手の死生観を大事にしてあげるという考え方に共感しました。
- ・「宗教的ケア」と「スピリチュアルケア」の違いについて教えて頂き、場所や立場などさまざまな状況で、こちら側の臨機応変な“ふれあい”が必要だと学びました

講 義：現世利益から本質的な救いに導く「方便力」



講師：伊藤雅由（本会 元埼玉支教区長）

教育項目 「人心救済力開発」

内 容

「本質的な救われ」、「方便」、「結び」といったことに焦点を絞り、立正佼成会の創立から今日に至る歴史的変遷を振り返りました。そして、《「因縁果報」の結びと「仏性礼拝」による結び》について事例をもとに比較研究を行い、“世のため、人のため”に行動できる人間に生まれ変わるための方便力について学びました。

塾生の主な感想

- ・市民社会のためのリーダーにならせて頂くことが、開祖さまが最も願われていたことと教えて頂き、感謝の心でいっぱいです。
- ・佼成会の教えの説き方が時代によって変化していること。また「苦」（現象）の中の尊さ（ご本仏さまの慈悲＝救い）を見つけることの大切さを教えて頂きました。

講 義：キリスト教から学ぶ、よりよき市民社会づくり



講師：川本貢市（中央学術研究所 所長）

教育項目 「人生経営力開発」

内 容

イタリアでの留学体験とその後の研究成果に基づき、キリスト教、特にフォコラーレ運動のキアラ・ルービック女子が提唱した「共有の経済」の精神と具体的な事例を学び、我が国におけるよりよき市民社会構築のためのライフスタイルのヒントを学びました。

塾生の主な感想

- ・フォコラーレ運動の事例を通して、「必要な人のいるところで必要なことから始める」「他者に与える生き方」というところに共感しました。また、「自主的に行動する」「目的を明確にする」「尊敬しあう」ということを胸に、今後活動をしていきたいです。
- ・日本の人権意識の低さに驚き、また仏教とキリスト教の精神の根底は一つと感じました。

講 義:生命科学が証明する「宗教心」の大切さ



講師:平塚真弘(東北大学大学院 准教授)

教育項目「人心救済力開発」

内 容

物理学における最先端の仮説理論をもとに、魂の輪廻、生まれ変わり等の宗教的考え方について考察し、先祖供養、縁起観、十二因縁といった仏教、特に庭野開祖が説かれた教えが、過去世から現世、来世へと続いていく真理として科学的にも証明することができ、またその行法こそが幸せに至る道であることを学びました。

塾生の主な感想

- ・自分の徳分は「ありがとう」と人さまから言われた分だけ積まれていく等々。これからの人生にたいへん有意義なことを科学的に教えて頂きました。
- ・「自分が幸せになる」「人さまを幸せにするため、お互いの魂を向上させるために、この世に生れてきた」。これらのことをしっかりと胸に生きていきたい。

講 話:塾生に期待すること 一卒塾にあたって一



講師:近藤雅則(塾長、仙台教会長)

教育項目「人間力開発」

内 容

塾生の卒塾にあたり、この一年間の中での塾生の成長、実践、成果について確認をし、また「失敗を恐れずに、何度もチャレンジ」していくことの大切さが話されました。また、現代社会における新たな「行法観」、「菩薩観」についてふれつつ、塾生の今後の実践へのさらなる期待、励ましが述べられました。

塾生の主な感想

- ・これからは「自立」した菩薩になることが大切で、課題が出てきたら、自らが一歩前進したことであり、また失敗を恐れずに“まず一人からやってみる。一人でもやってみる”というように意識が変わりました。
- ・開祖さまの願いと、この「リーダー養成塾」の願いは一緒だと改めて思わせて頂きました。また、本気でやれば、必ず人はついてくると教えて頂きました。
- ・塾長さんから、改めて「人を植える一人材育成」に全力を尽くしていくことの大切さと、今回のリーダー養成塾は、単なる教会のお役をしていくための人材育成ではなく、開祖さまの教えを柱として、広く地域社会において役に立てる“人財の育成”であると教えて頂きました。

5. 卒塾発表（要旨）

卒塾生14名全員が、第4回（最終回）2日目に卒塾にあたっての学び、感想、成果、実践等の発表を行いました。

***発表・・・塾生1人、発表15分間。（10分間 発表、5分間 質疑応答）**



以下に発表の中から、具体的な実践の報告、計画について記します。

塾生（男性）

「仙台夜回りグループ」の活動に参加し、ホームレスの方との関わりを持たせて頂きました。また、引きこもりの青年の趣味を通して「ギター教室」を開室。「子ども食堂」でギター演奏会を行いました。

塾生（女性）

新宿の歌舞伎町で活動する公益社団法人「日本駆け込み寺」後援による「国分町駆け込み寺」を6月に「仙台ボランティアサポートセンター」内に設置・発足。「スタッフ学習会」、「電話相談」等を実施しています。

塾生（男性）

仙台教会における対外、対社会に向けた活動、取り組み、組織（「あおばの会」、「家庭教育 ひだまりの会」、「仙台わかば塾」等）を一箇所に集約した“市民を繋げる拠点開設”を行っていききたい。

塾生（男性）

一歩前への“発”の心を忘れずに、事業としての「育児所」の開設は公認を得るためのハードルが高いので、まず「高齢者福祉施設」の建設を目指して、借り受けのできる鳴子温泉の旅館を年内に探していききたい。

塾生（男性）

自分が「言い出しっぺ」になるという信念のもと、心にしっかりと羅針盤を持って、“価値観”“ビジョン”“ミッション”と積み上げ、自分、家族、会社、地域、それぞれ75歳までの人生計画を立て、実現していききたい。

塾生（女性）

「家庭教育を通しての家庭平和」、「我が子の母から社会の母へ」をテーマに両親が所有する空き家を利用して「家庭教育 ひだまりの会」を発足しました。育児に悩むお母さん方に家庭教育と温かい居場所を提供していききたい。

塾生（女性）

地域の農家の方から野菜を提供してもらい、閑上地区の復興住宅にお住まいの方たちへのバザー「陽だまり広場」を行いました。今後もバザーの他、「困り事相談」「芋煮会」等の季節に合わせた行事を行っていききたい。

塾 生（女性）

自分の両親の体験を通して、宗教を持つ自分が自ら病気を持つ人（患者さん）に寄り添っていくボランティア活動を実践し、また地域のお年寄りが集い、明るく、元気になれる場を作っていきたい。

塾 生（男性）

自分の周囲の人を助けられるよう、また周囲に対して心身共に頼られるよう、自分づくりに励んでいきたい。具体的には、まず仙台教会でご法の習学に努め、またジムに通いトレーニングを積んでいきたい。

塾 生（女性）

「地球のための学びの応援隊」（仙台市市民センターと小学校の合同）の実行委員として地域のための活動をしていきたい。将来的には発達障害児の受け入れや、「仙台支え愛サポートセンター」のお手伝いをしていきたい。

塾 生（女性）

社会福祉協議会からの後援も頂き、地域のボランティア・スタッフの皆さまと共に立ち上げた、「たけくまこども食堂」を継続して行っていきたい。現在まで自宅にて6回開催、約30人で子どもたちと食事を頂いています。

塾 生（女性）

支部や地域にいらっしゃる美容師、理髪師の資格・経験をお持ちの方に呼びかけ、乳幼児の健やかな成長を願い、仙台市内の乳児院にてヘヤーカットのボランティア（1～2ヵ月に1回）を年内からスタートさせていきたい。

塾 生（男性）

この塾で自分自身を見つめた時、私の性格は人の先頭に立つリーダーというよりも、まず相手の声に耳を傾け、多くの人を陰から支えていけるリーダーとして「観世音菩薩のはたらき」を果たしていきたい。

塾 生（女性）

西日本豪雨の被災地である倉敷市真備町の復興ボランティアに参加しました（9月）。学びの中で心に眠っていたものが押し出され、行動に移すことができました。“Peace Volunteer Church of Sendai” をめざしていきたい。



6. 卒塾証書

卒塾発表の後、卒塾生一人ひとりに近藤塾長より「卒塾証書」が授与されました。



以上、有り難うございました。

合 掌